



志村 それはよい経験をしたね。

宮本 最初は何も分からなくて困りました。行く前にすごくたくさん暗記していったけれども、いざ会ってみると何にも言えなくなっ  
てしまいました。でも、一緒に生活していくうちに大体何を言っているのか分かるようになってきて、最後のころになったら、口癖みたいなのも覚えちゃった。

志村 行く前と行ってからでは大分上達したようだね。

高尾 向こうで覚えた言葉はもう一生忘れない。

渡辺 辞書にのっていない単語もたくさん教えてもらったものね。

## 今後の国際交流に望むこと

澤田 最後に、今後国際交流に望むこと、それにプラスして、行く前と後ではどんな心境の変化がありましたか。

矢野 私たちはこの国際姉妹校交流事業の一番初めの訪問団だったから素晴らしい歓迎を受けたけれども、これから交流が進んで何年も経てば、慣れてしまっ  
て、「あ、また日本人が来た」と言う具合に大した歓迎もされなくなってしまうんじゃないかな、なんて不安もある。でも、向こう

の人間が来た時は、私たちが受けた以上の感動を与えてあげたい。

宮本 個人的には、文通などを通してずっと友達でいたい。とても貴重な体験だった。もっとたくさんの人に経験してもらいた

いからずっと続けてほしいです。

高尾 一生懸命勉強してもっと語学力を身につけて、日本の歴史や文化を教えてあげたいですね。お互いの文化を理解しあ

のが交流の始まりだと思えます。

熊谷 できれば、また何年か経ってこの二十名と向こうの人達と同窓会みたいな形で再会できればいいな。アメリカで影響を受けて自分が変わったかもしれないけれど、やっぱりあちらのような生活はできないし、せっかく変わった所も日本に帰って来てまた元に戻ってしまったかもしれない。

渡辺 アメリカは、その土地の大きさもそうですが、それにも増して人の心の広さを知ることができました。いろいろしていただいて、心の中ではもっと感謝の気持ちを伝えたかったけれど、「サンキュー」という言葉しか知らなかった自分が悲しかった。この次にはもっと勉強して、心の底から話ができ

ればいいな。今度、アメリカからきたみんなが楽しめるように努力したいです。

西 僕たちが英語を教わったように、向こうの人達が来た時に簡単な表現でも良いから日本語を教え

てあげたい。

志村 渡辺さんが言ったように心が広がっているという事は確かにありましたね。他人のために社会活動や奉仕活動に従事している姿を見て心被打れました。誰かのために役に立ちたいという気持ちをみんな持っているみたいです。

全体に波及して

います。先日、旅行会社から学校に海外留学に関するパンフレットが数部送られて来ました。それがあつと言

間に終わってしまいました。さっき、「これから先も私たちが受けたような素晴らしい歓迎が望めるだろうか」という意見があり

ましたが、そんなことはありません。私が八年前に行った時も、ちびっ子が

行った時も、いつもいつもこのような素晴らしい歓迎をしてくれたんですよ。

志村 桂の生徒が行ったのは事実ですが、都留市の高校生が来た、いつも都留市という影があった気がしませんか。

澤田 後だてはやはり都留市なんですよね。都留市の友好委員会と向こうの友好委員会との関係の中に我々の存在があったのです。さっき話をしたパンフレットの海外留学に仮に参加したとしても、その人たちがあなたがたと同じような経験ができるかといったら、それ



はとても不可能です。市を挙げて暖かく迎えてくれましたよね。やはり、都留市とヘンダーソンビル市が友好委員会を通じて長い間培ってきた友情という後だてがあったからこそ、あのような素晴らしい歓迎を受けられたんです。

都留市の友好委員会を始め、大切なお子様を送り出してくれた父兄の皆さま、その他様々な面でご協力、応援して下さった全ての方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。